

令和7年度 第1回 都田中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年5月13日（火） 15時00分から16時20分まで
- 2 開催場所 都田中学校 被服室
- 3 出席委員 太田 宜克、太田 和宏、下原 直美、下村 優子、神間 郁子、吉田 恵子、
高須 里美、小出 慎一郎、野末 将秀
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 谷野 弘勝（都田協働センター所長）
- 6 学 校 生熊 和広（校長）、尾田 由利恵（教務）、渡邊 宏枝（教諭）、
丹所 宏貴（教諭）、鈴木 貞良（教諭）、野澤 直樹（教諭）、佐野 道弘（教諭）、
桑原 恵実（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 桑原 恵実
- 9 会長の選出及び副会長の指名

司会から、会長の選出について意見を求めたところ、太田宜克委員から太田和宏委員を会長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。また、その後、会長に選任された太田和宏委員から、太田宜克委員を副会長に指名する旨の報告があった。

10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、下村委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- （1）令和7年度都田中学校学校運営基本方針の確認
- （2）令和7年度都田中学校各学年の目標及び現状等
- （3）夢育やらまいか事業に対する意見書

12 会議記録

司会の下村委員から、委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）令和7年度都田中学校学校運営基本方針の確認

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき学校運営基本方針について説明があり、委員から以下の発言があった。

- ・中体連の大会に参加できるサッカーの地域クラブに入っている。（高須委員）
- ・地域クラブになることによって学校から会費の補助はあるのか。（太田宜克委員）
- ・ない。今は受益者負担で学校会計ではなく保護者会計になっていて、部によって部費が違う。（学校）
- ・送迎はどうなっているのか。（神間委員）
- ・個人で送迎する。送迎が負担でクラブを辞める家庭もある。（高須委員）
- ・学校部活でも現地集合が多いので保護者に送迎をお願いすることになる。（学校）
- ・部活動をしている間は顧問の先生は必ず常に二人いるのか。（神間委員）

- ・二人はいない。一人はいるが突発的な生徒指導が入ると不在になる場合もある。(学校)

(2) 令和7年度都田中学校各学年の目標及び現状等

議長の指示により、学校から、別紙資料に基づき都田中学校各学年の目標及び現状について説明があった。その後、各学年主任から学年の様子について報告があった。

・教務

純朴で素直で頑張る子たち。内面を見て、才能、良さを引き出していきたい。

・3年生

先日の修学旅行は、各自で個人追及テーマを決め、京都と浜松、奈良と都田を比べながら、3年間で総合的な学習で都田を未来に向けてどう作っていくか、他の地域と比べることをやってきた。実際に能を観ることで、本物を観たという経験が子ども達の糧になっていると感じる。

進路に向けての進路選択、二大行事を3年生の力で引っ張っていく、総合的な学習の時間も含めて、自分の将来をどうするのか、都田地区をどうするのかの考えを含め、日々成長している。笑って卒業式を迎えさせたい。

・2年生

臨海活動を控えている。1日目地引網、2日目ダブルハルカヌー(去年のカッター訓練から変更)を体験する。今は夜のレクリエーションのクラスの出し物を準備、練習している。

2学期には職業体験がある。それに向けて、講師を呼んで話を聞いたり、準備を進めたりしながら、進路を踏まえ活動に取り組ませたい。後期からは学校の中心になっていくので、意識させた活動をしていきたい。4月のアンケートでは、専門委員をやりたい、生徒会をやりたい、学級委員をやりたいなど意欲的な回答があった。そういう気持ちで1年間過ごせるといい。

・1年生

明るく元気な学年。言い換えると落ち着きのなさがある。一か月が経つがまだ変わらない。小学2～4年生のコロナの影響があるのではないかと。小学校で学ばなければいけないことが抜けているのかもしれない。3年間を通して都田中生らしくなっていければ。生徒のいる場所に教員がいることを目標に、授業担当以外にも生徒と接する機会を増やしていく。欠席が少ない、学校が好き、朝も早く来る、残菜も少ない、非常にいい子たち。改善すべきところは改善していく。

・5組

夢に向かって前進という目標のもと頑張っている。勉強が苦手、感情のコントロールが難しいなど、特性、個性がある子たち。

みかんの摘果など地域に出かけ、体験を通じて学びや報告・連絡・相談など自分たちに必要なことを身につけていく。他にも地元の商業施設や浜松学園などにも出向くことを考えている。

進路は特別支援学校への進学は減っている。進路については模索しながら考えていく。

・生徒指導

4月最初の3日間は、PTAの方や地域の方々が交通指導をしていただいたおかげで事故がなかった。夏休み明けにもまたご協力をしていただけたら。

生徒の課題は、時間の意識と挨拶。挨拶を自分からすることが苦手。学校外で過ごす時間が多くなっていく中で、愛される人になってもらいたいのと、自分から挨拶ができてコミュニケーションが取れる人を目指して指導にあたりたい。

委員からは以下の発言があった。

- ・命について話し合う時間はあるのか。命に対する教育はどのぐらいあるのか。(吉田委員)
- ・市で6月に命について考える日を設けている。各学年、それぞれの資料を使ってやっている。日常生活の中で事あるごとに、授業以外でも命については語り掛けをしている。(学校)
- ・自分の気持ちを出さない子は自殺に向かっていく、外に出す子は相手を傷つける、両方あるので、大人として早期発見、気づきを大事にしたい。何か予防する方法を与えてあげたい。(吉田委員)
- ・5組の生徒はほかの生徒との接点はあるのか。(小出委員)
- ・交流学級で授業に出る。行事の時、天白祭の合唱や練習を一緒にやる。修学旅行も一緒に行って、タクシー研修をする。3年生になると一緒に活動ができるようになる。
- ・小学校の卒業式で命の尊さの話をしたが、体調不良になった子がいた。その子にとってはストレスだったのかと反省した。命の話は難しいことだと感じた。(野末委員)
- ・都田中学を卒業して高校生になった時に抵抗感を感じた。純朴で素直な反面、小さな世界から外に出た時に抵抗を感じて挫折してしまう子もいる。相反する部分なので難しいと思うが、そういうところを育てて欲しい。(野末委員)
- ・すべての人に与えられているものが一つある。それは選択の自由。そのことを先生からいろんな機会を通して話をしていただきたい。あなたが選ぶことによって、その結果はあなたがそれを受けるということを若いうちから理解しておくことで、将来を自分が選んでいる、正しいことなのかと気づきを与えられるのではないか。(太田宜克委員)

(3) 夢育やらまいか事業に対する意見書

浜松市から6万円の予算をもらっており、学習に関する支援に対する謝礼等に使用する予定。

その他連絡事項

学校より、次回会議は、令和7年11月18日(火)14:00から都田中学校被服室で開催する旨の報告があった。